

- ・途中でヤダケが生い茂っていたため前に進めなくなり、河川内を遡上するグループとヤダケを伐採しながら登るグループに分かれた。
- ・河川内は岩場が続き、非常に滑りやすい上に、川の濁りが強く川底が見えない危険な状態であった。(2名転倒)
- ・かつては川沿いに道があったが、植物に覆われ、進むために鉋等で伐採しながら進む必要があった。
- ・養豚場直下では、川底に大量の食品残渣が見られ、川底の泥から強烈な悪臭が発生していた。
- ・養豚場横水路の様子を確認したところ、養豚場から間欠的に茶色に濁った水が水路に排出されていた。養豚場関係者によるとちょうど汚水槽の掃除を行っているところとのことであった。
- ・赤田川本流への養豚場から排水路を過ぎると、川底の食品残渣が見られなくなり、底質が黒く変色していることもなくなった。
- ・養豚場直下、養豚場横でも採水と底質の採取を行った。また、養豚場関係者の同意を得て、汚水槽から排出された水を採取し水質調査を行うこととなった。
- ・養豚場を過ぎると、水の濁りはましになり魚影も見られた。
- ・奈良市簡易水道まで登り、一旦解散とし、木津川市と(株)ヌエス環境株式会社で下流側の砂防堰堤の状況調査を行った。
- ・堤体直下のダム湖の状況を確認したところ、深さが1.5mほどしかなく土砂が堆積しているようであった。また堰堤内底質を採取したところ、強烈な悪臭を発していた。
- ・その後、赤田川の最上流部の様子を確認した。処分場からの排水の調整池では、濁りはなかったが少し赤く変色しているように思われた。

以上

赤田川流域図

